

第4学年 体育科学学習指導案

指導者 二宮 章紘

- 1 日時 令和6年6月13日（木） 5校時（13：35～14：20）
- 2 場所 体育館
- 3 単元名 集え！スペシャリスト！（体づくり運動領域 多様な動きをつくる運動）
- 4 授業づくりに関する考え方

(1) 子どもの実態と教材の特性

子 ど も の 実 態	本学級の子ども〔男子 14 名、女子 15 名の計 29 名（特別支援学級 3 名を含む）〕は、互いのよさを認め合う温かな雰囲気の中で体育学習に取り組んでいる。	教 材 の 特 性	多様な動きをつくる運動の領域では、他の領域において扱われにくい体の様々な動きを取り上げ、その行い方を知るとともに、運動の楽しさを味わいながら多様な動きを身に付けたり、動きの質を高めたりすることをねらいとしている。
	○ 運動経験に偏りがあったり、運動を好む子どもとそうでない子どもの体力の差が開きつつあったりするが、授業で学んだポイントを素直に実践し、運動技能を伸ばそうとする姿が多く見られる。（知識及び運動）		本単元では、誰もが前向きに活動できるように「やさしい運動」をきっかけにして、多様な動きを身に付けたり、動きの質を高めたり、活動や運動の行い方を工夫したりする。友達との豊かなつながりや対話を通して、課題解決する経験を積むことで、体を動かす楽しさや心地よさ、自己の体力向上を実感することが期待できる教材である。
	○ 対話的な学習を重ね、友達のよい動きを見付けたり、伝えたりする活動に取り組んできた。一方で、運動において、ルールや場の設定を考えたり、自己やチームの課題解決のために工夫したりすることが不十分で、経験を積み重ねる必要があると感じている。（思考力、判断力、表現力等）		教師は、自己の指導性をどこまで、どのタイミングで発揮するかに留意する。空間や教具、活動自体に仕掛けを施し、子ども自身が自己やチームの課題を見付け、改善し、仲間と頑張りを認め合うことができる活動となるようにする。
	○ どの運動に対しても大変意欲的に取り組んでいる。さらに、習得した知識や技能を活用したり、次の学習内容や日々の生活に生かそうとしたりする態度を育成する必要がある。（学びに向かう力、人間性等）		本単元の学習は、運動能力の差に関わらず、多様な運動を仲間と楽しみ、できる喜びや協力する楽しさを味わうことに適したものである。

(2) 単元構想

ア 単元目標

- 多様な運動の楽しさに触れ、基本的な動きを身に付けるとともに、それらを組み合わせる運動をすることができるようにする。（知識及び運動）
- 自己の課題を見付け、その解決のために活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えることができるようにする。（思考力、判断力、表現力等）
- 多様な動きをつくる運動に進んで取り組み、きまりを守り誰とでも仲よく運動したり、友達の考えを認めたり、場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。（学びに向かう力、人間性等）

イ 本単元で身に付けさせたい力の系統表

学年 観点	低学年 ＜かみやまランド＞	中学年 ＜集え！スペシャリスト＞	高学年 ＜かがやけ！スペシャリスト＞
知識及び運動	○ 運動遊びの行い方を知り、体のバランスをとったり移動したりするとともに、用具を操作したり力試しをしたりすることができる。	○ 運動の行い方を知るとともに、体のバランスをとったり、移動したり、用具を操作したり、力試しをしたりすることができる。また、それらを組み合わせる運動をすることができる。	○ 体力の必要性や動きを高めるための運動の行い方を理解するとともに、自己の課題を踏まえ、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高めるための運動をすることができる。
思考力、判断力、表現力等	○ できそうな運動遊びや友達と行うと楽しい運動遊びを選んだり、場や使用する用具を変えながら、運動遊びの行い方を工夫したりすることができる。 ○ 友達のよい動きを見付けたり、工夫した楽しい遊び方を友達に伝えたりすることができる。	○ 自己の課題を見付け、その課題を解決するために様々な運動の行い方を選んだり、友達と一緒に工夫したりすることができる。 ○ 心と体の変化に気付いたことや、友達と関わり合ったり、多様な動きを身に付けたりするために考えたことや見付けたことを伝えることができる。	○ 自己の心と体の状態や体力、課題に応じて運動の行い方を選んだり、体の動きを高めるための運動の行い方になるように工夫したりすることができる。 ○ 体をほぐしたり、体の動きを高めたりするために自己やグループで考えた運動の行い方を他者に伝えることができる。
学びに向かう力、人間性等	○ 進んで運動遊びに取り組むとともに、順番やきまりを守って、誰とでも仲よく運動遊びに取り組むことができる。 ○ 場の安全に気を付けたり、用具の準備や片付けを友達で行ったりすることができる。	○ 進んで運動に取り組むとともに、きまりを守り、誰とでも仲よく励まし合ったり、互いの気持ちを尊重し合ったりすることができる。 ○ 場の安全を確かめたり、用具の準備や片付けを友達と一緒にに行ったりすることができる。	○ 積極的に運動に取り組むとともに、約束を守り、仲間と助け合ったり、取組のよさを認め合ったりすることができる。 ○ 用具の使い方や周囲の安全に気を配り、場の設定や用具の準備で、任された役割を果たすことができる。

ウ 本単元を通して育てたい子ども像（ゴールイメージ）及び教師の願い

仲間とともに「できるようになる喜び」を感じる愛顔あふれる子ども

仲間との関わりを大切にしながら、進んで基本的な動きを身に付ける運動に親しみ、できる喜びや協力する楽しさを味わう、「愛顔あふれる子ども」を育てたい。

(3) 単元計画

ア 研究の視点及び手立て				イ 評価規準									
「教材とつながる」		「仲間とつながる」		「自分とつながる」		知識・運動		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度			
① 誰もが前向きに運動に親しむことができるように、「やさしい運動」にしたり、運動のポイントを明確にしたりして、「分かる」「できる」喜びや運動のもつ本質的な面白さを味わえるようにする。		② 進んで仲間と関わり、仲間と共に課題を解決していこうとする活動となるように、仲間とつながる場の設定や学習活動を工夫する。		③ 自信をもって多様な運動に挑戦していこうとする態度が身に付くように、学びの成果や課題を振り返る場を整えたり、仲間と協力して活動やルールを工夫したりする面白さを味わわせたりする。		ア 運動の行い方について理解を深めようとしている。 イ 体のバランスをとったり、移動したり、用具を操作したり、力試しをしたり、それらを組み合わせたりすることができる。		ア 自己の課題を見付け、その解決のために活動を工夫している。 イ 場や使用する用具を変えながら、運動の行い方を工夫している。 ウ 友達のよい動きを見付けたり、伝え合ったりしている。		ア 進んで運動に取り組もうとしている。 イ きまりを守り、誰とでも仲よく、励まし合って運動に取り組もうとしている。 ウ 互いの考えや気持ちを尊重しようとしている。 エ 場や用具を整え、安全に気を配っている。			
ウ 単元における指導と評価の計画													
時		1		2		3		4		5		6（本時）	
学習の流れ		オリエンテーション		動きを選んで、記録会をしよう		反省を生かして練習しよう		動きをみがこう		新記録に挑戦しよう		記録に挑戦し、学びを振り返ろう	
		○ きまりや安全面ついて知り、「やさしい運動」を通して、運動の楽しさを味わう。【視点①】		○ 多様な動きを身に付けるための運動に取り組み、自分のできそうな運動を選ぶ。【視点③】		○ 仲間と一緒に楽しく運動に取り組むとともに、よりよい動き方について考える。【視点②】		○ 多様な動きを身に付けたり、動きの質を高めたりする。【視点①】		○ 仲間と協力して運動に取り組む、よいところや成長したところを伝え合う。【視点②】		○ 体や心の変化、仲間との関わりを振り返り、学びの生かし方を考える。【視点③】	
主な評価	知	ア（様態）						イ（様態）		イ（動画・様態）			
	思			ア（様態・記録カード）		ウ（動画・様態・カード）		イ（動画・様態・カード）		ア（動画・様態・記録カード）		ア（動画・様態・記録カード）	
	態	ア、エ（様態）		イ（様態）		ウ（様態）							

5 本時の指導（6／6）

(1) 目 標

- 多様な運動の楽しさに触れ、基本的な動きを身に付けるとともに、それらを組み合わせる運動をすることができるようにする。（知識及び運動）

(2) 準備物

- 教 師 跳び箱の最上段、コーン、体操棒、平均台、ボール、ワークシート
- 子 ども 短縄

(3) 展 開

学習活動	○ 教師の働き掛けと子どもの意識の流れ	□ 指導上の留意点 ■ 苦手な子ども・意欲的でない子どもへの支援・配慮 ◎ 評価規準（方法）【観点】
1 課題を確認し、準備運動をする。	チームの記録に挑戦しよう！	■ 運動の様子やポイントを視覚的に理解できるように資料を用意しておく。
2 チームごとに運動を行う。	多様な運動を通して、動きをみがこう ・この動きは、力強さにつながるんだね。 ・バランスをきたえるぞ。 ・友達と息を合わせて頑張るぞ。	□ 本時の主運動の類似運動に取り組んでいる児童や目標を持って取り組んでいる児童を称揚する。 □ 本時の主運動で取り組まない運動も経験させ、多様な動きが身に付くようにする。
3 リレー競技に取り組み、自分たちの記録に挑戦する。	力を合わせて、競技に挑戦しよう ・新記録が出せるように頑張るぞ。 ・みんなで協力して、早くゴールするぞ。 ・○○さんの動きすごいいね。 ・頑張っている人をみんなで応援しよう。 ・応援されると嬉しいな。 ・審判もとても大切だね。	□ 運動を多様に楽しむことができるように「する・見る・支える」といった視点で取り組んでいる児童の行動を称揚し、全体の意欲化を図る。 ◎ 基本的な動きを身に付けるとともに、それらを組み合わせる運動をすることができる。（動画・様態・カード）【知識・運動】
4 活動の振り返りと片付けを行う。	今日の活動を振り返ろう ・だんだん自分の力がついてきたことが感じられたよ。 ・記録が伸びるとうれしかったよ。 ・サッカーやバスケットでも役に立ちそうな力が身に付いたよ。 ・○○君の動きがすごかったなあ。	□ 友達のよいところやよい動きを全体で共有して、今後の運動や生活に対する意欲を高められるようにする。 ■ タイムや体力の向上だけでなく、取組を続けたことや個人内の成長に目を向けさせることで、運動に対する意欲化を図る。

(4) 本時の研究の視点

- 自分自身の体や心の変化、体力の課題やその成長に気付いたり、仲間と協力して活動やルールを工夫したりする面白さを味わったりしているか。【自分とつながる】

(5) 集え！スペシャリストで取り組むリレー競技の概要

- ・ 全体を6チームに分けて、5つの競技をリレー形式で行う。
- ・ 難易度の調整のために、基本のルールを変更することができる。ただし、ルールを変更する際は、他のチームに許可をとってからとする。

(6) 本時に行う主な運動と基本のルール

バ…体のバランスをとる運動、**移**…体を移動する運動、**操**…用具を操作する運動、**力**…力だめしの運動、

① 島わたり（**移**…跳び箱の上を跳ぶ、跳ねる **力**…跳び箱を運ぶ）

- ・ 全員で行う。
- ・ 跳び箱の最上段を運んで道を作る子どもと、ジャンプをしてゴールを目指す子どもに分かれる。
- ・ 10m先に設置したコーンを折り返して戻ってくる。

<難易度調整のための工夫例>

- ・ 折り返し地点の調整、道具の変更 等

② じゃんけん手おし車（**力**…片手で体を支える **力**…ペアの体を支える）

- ・ 全員で行い、チームで1勝したらクリア
- ・ 10m先に設置したコーンのところで、じゃんけんをする。
- ・ じゃんけんに勝って、戻ってきたらゴール。
- ・ あいこの場合は、勝敗がつくまで行う。負けたら、次のペアがスタートする。

<難易度調整のための工夫例>

- ・ 足をもつ人数を増やす、折り返し距離の調整、負けても勝つまで続ける 等

③ バランス ぼうはこび 【組み合わせ】（**バ**…平均台の上に乗る、**移**…歩く、**操**…棒を乗せる）

- ・ 全員で行う。
- ・ 平均台を渡った先まで、2本の棒を届ける。
- ・ 棒は掴んだり持ったりせず、手のひらを開いた状態で支える。
- ・ 落ちたり掴んだりしたら、その場からやり直す。

<難易度調整のための工夫例>

- ・ 素材の変更、ゴール地点までの距離の調整

④ バウンド&キャッチ【組み合わせ】（**移**…落下地点に移動する **操**…ボールをバウンドさせる 等）

- ・ 全員で行い、合計2回成功したらクリア。
- ・ 床にバウンドさせたボールを、背中に背負ったかごでキャッチする。

<難易度調整のための工夫例>

- ・ 合計回数を減らす、ボールを変更する、二人組で行う

⑤ ボール渡しリレー【組み合わせ】（**移**…走る、**操**…ボールを運ぶ）

- ・ 全員で行う。
- ・ 10m先に設置したコーンを折り返して戻ってくる。
- ・ 行きは、頭の上を通すようにしてボールを渡す。
- ・ 帰りは、股の下を通すようにしてボールを渡す。

<難易度調整のための工夫例>

- ・ ボールの素材や大きさの変更、折り返し距離の調整